

ヒメクビワカモメ

珍鳥中の珍鳥であるこのカモメが谷津干潟に現れ、多くのファンを楽しませてくれた。

英名は簡単、最初の発見者の名前からつけたものであり、やや物足りないかもしれないが、世界中この名で通用している。

“Ross' Gull” または “Ross's Gull”

では、“Ross”について調べてみると、イギリスの探検家で北極の航海者、Sir James Clark Ross (1800-1862) であり、ウィリアム・パリーの第 2 回の北極探検の時に、1823 年 6 月、カナダのメルビル半島でこのカモメの最初の標本を採取した。これが学会で認められて英名に Ross の名が付けられた。

約 200 年前の標本の採取とは、“Shot the first specimen” (初めての標本を撃ち落とした) とあるように、分からない鳥の単純明快な同定方法、いわゆる “Shotgun Method” (ショットガン方式) の採取である。

ズドンと撃ち落として机上で細かく検分する「ショットガン方式」は、アメリカではかなり長く使われた方法であったが、勿論現代では使われていない。

日本人には、やはり「ヒメクビワカモメ」の方が心地よく聞こえるのは不思議だ。

大宮のハクトウワシ

『しらこぼと』No. 190、2000年2月号より